

# 平成 26 年度事業報告書

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

## 1. 事業の成果

インドネシアにおけるウミガメ保全事業を継続させ、事業の拡充を行った。現地 NGO である「インドネシアウミガメ研究センター」をカウンターパートとして、ジャワ海の 5 カ所の島において卵買上げや島借上げの手法を用いたタイマイとアオウミガメ卵の保全事業を展開した。西パプア州のジャムルスバメディ地区では、地域住民と協働でオサガメ保全事業を実施した。ウェルモン地区では、海岸所有について住民同士でもめていて 3 年間入れなかった海岸に、2 月に調査することができた。

日本国内の事業として、東京都小笠原村父島の「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」の運営管理を小笠原村より受託し、海洋生物の調査研究及び保全事業を遂行した。また、展示施設を利用した教育プログラムも継続して行い、小笠原小学校 5 年生の総合学習事業も継続した。関東沿岸のウミガメ漂着（ストランディング）調査に関しては、行政や関係機関、各地団体や個人と協力して行い、ウミガメ漂着個体の放射能汚染モニタリング調査を継続した。また、各教育機関での講演の他、各種イベントやシンポジウムへの出展や調査結果のサイト公表を行った。「第 2 回アクションミーティング」を開催し、一般の人に対して情報提供や啓発を行った。ウミガメジョイントブリーディング（小学校や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラム）を計 4 組織で実施した。各種イベントに参加して活動報告紹介や広報活動を行ったほか、オリジナルグッズの物品販売事業やフェアトレードを実施した。

## 2. 事業内容

### (1) 特定非営利活動に係る事業

#### ① 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出額:34,551 千円】

##### ア. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】ジャワ海西部の 5 つの島（セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島）では、卵買上げや島借上げ手法を用いたウミガメ（タイマイとアオウミガメ）卵の実質的な保護の継続を行い、キマル島では、トカゲによる卵食害の対策を立案し実施した。プスムット島では、ネズミによる食害対策としてネズミ駆除を実施した。各産卵地からタイマイの DNA 分析用サンプルの収集を開始し、保全活動を分子生物学の観点で評価を開始した（遺伝的多様性などを評価していく）。5 つの島でタイマイを 1,624 巣(197,000 卵、2014 年 1-12 月)、アオウミガメを 511 巣(47,000 卵、2014 年 1-12 月)保全することができた。西パプア州のジャムルスバメディ地区とウェルモン地区では、住民が行うオサガメ保全活動を資金的及び技術的な面から支援し、地域住民による卵監視システムの更なる強化を図った。また、ブタによる卵の食害を防止するために電柵のスウェン川での新設や修理、小屋の修復なども行った。しかし、オサガメの産卵巣数は、両地区とも依然として減少傾向にある。今年度は、パプア大やアメリカの調査がオサガメの産卵に悪影響を与えていることが証明され、緊急の対策が必要となった。

- イオン環境財団助成事業（一部）
- 国際資源評価等推進補助事業（一部）

【日時】平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日

【場所】ジャワ海西部（セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島）

西パプア州（ジャムルスバメディ地区、ウェルモン地区）

【従事者人員】 4人

【対象】 ジャワ海西部地域の住民（40～60名）、西パプア州地区住民（1,000人）

【対象】 島民（約2,700人）

#### イ. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】 小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化率調査、人工ふ化放流、短期育成を実施した。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、産卵された卵を小笠原海洋センター内に移植し、ふ化後に一部をヘッドスターティング事業に供し、他のふ化稚ガメはすべて放流した。また、帰海できなくなった母ガメの保護も行った。産卵巣数は、父島列島で844巣、母島列島で147巣を確認し、これまでの増加傾向から一気に減少した。聳島列島の調査は天候不良のため実施できなかった。

##### ● 小笠原村補助事業

【日時】 平成26年4月1日から平成27年3月31日

【場所】 小笠原諸島

【従事者人数】 30人

【対象】 島民（約2,700人）、一般（不特定多数）

#### ウ. 関東沿岸におけるウミガメ漂着調査事業

【内容】 関東沿岸（茨城県、千葉県、東京都、神奈川県）および東北地方沿岸域のウミガメ漂着（ストランディング）調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施した。合計123頭の死亡漂着個体および混獲個体の情報を収集し、そのうち109個体に対して剖検を行った。また、44個体から試料を採取し、専門の分析機関で放射能分析を実施した。これまで構築したネットワークをベースに各地団体や個人、行政と協力しながらネットワークの強化を図った。

##### ● 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金助成事業

【日時】 平成26年4月1日から平成27年3月31日

【場所】 茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、福島県、宮城県

【従事者人員】 4人

【対象】 各地団体及び個人（サーファー、カヤッカー等）、行政関係者、漁業関係者など約200人

#### エ. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】 小笠原諸島周辺海域に来遊するザトウクジラの社会構造解明調査を実施した。

【日時】 平成26年4月1日から平成26年4月30日

【場所】 東京都小笠原村父島及び母島、聳島の各列島

【従事者人員】 30人

【対象】 島民（約2,700人）

#### オ. サンゴ調査事業

【内容】 父島二見港におけるサンゴ群落の被覆度モニタリング調査を実施し、サンゴマップを作成した。

##### ● モバイル・コミュニケーション・ファンド助成事業

【日時】 平成26年4月1日から平成27年3月31日

【場所】 東京都小笠原村父島

【従事者人員】 3人

【対象】 島民（約2,700人）

② 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出額:2,844千円】

ア. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業

【内容】 インドネシア現地カウンターパートである「インドネシアウミガメ研究センター」のスタッフや各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術の指導を行った。

【日時】 平成26年5月、8月、11月、平成27年1月

【場所】 ジャワ海西部（セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島）、西パプア州（ジャムルスバメディ地区、ウェルモン地区）

【従事者人員】 4人

【対象】 ジャワ海西部の地域住民（30～50名）、西パプア州のオサガメ監視員及び地域住民（20人）

イ. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業

【内容】 海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。

【日時】 平成26年4月1日から平成27年3月31日

【場所】 東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市

【従事者人員】 9人

【対象】 一般

③ 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出額:6,860千円】

ア. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業

【内容】 小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行う。

● 小笠原村補助及び委託事業

【日時】 平成26年4月1日から平成27年3月31日

【場所】 東京都小笠原村父島（小笠原村屏風谷施設）

【従事者人員】 9人

【対象】 島民及び来島者

イ. 教育啓発・エコツアーリズム事業

【内容】 小笠原小学校の生徒に対して週1回の総合学習を通しウミガメに関する教育・啓蒙を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行った。海洋生物保全と地域経済活性化の両立させることを目的にエコツアーリズム基盤を構築した。

【日時】 平成26年4月1日～平成27年3月31日

【場所】 東京都小笠原村父島

【従事者人員】 9人

【対象】 一般

ウ. ウミガメジョイントブリーディング（子ガメ短期育成および飼育体験学習）

【内容】 世田谷区立玉川小学校およびさとえ学園小学校にて子ガメ短期育成と飼育体験を通じた教育・

啓発活動を実施したほか、ヨコハマおもしろ水族館およびすみだ水族館にて子ガメ短期育成を実施した。

【日時】平成26年4月1日から平成27年3月31日

【場所】東京都、埼玉県、神奈川県

【従事者人員】9人

【対象】小学生1,000人

エ. WEBサイトによる情報発信事業

【内容】エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行った。

【日時】平成26年4月1日から平成27年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体事務所）、東京都小笠原村父島（当団体小笠原事業所）

【従事者人員】8人

【対象】一般

オ. イベント開催・講演会・学会などに関連する事業

【内容】ウミガメやクジラ、サンゴに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展のほか、講演会を主催し、活動の紹介や海洋生物の普及啓発を行った。また、各種の講演会や学会、検討会に出席・発表し、専門誌「海洋と生物」への寄稿を行った。

【日時】平成26年4月（アースディ東京2014、国際ウミガメシンポジウム）、5月（かながわ湊フェスタ）、8月（海の青と都市の緑を守るフェア）、11月（カメDE Show、地球環境基金報告会、日本ウミガメ会議）、12月（ELNA主催アクションミーティング）、平成27年1月（東京海洋大学うみがめ研究会ゼミ）、2月（2014年度小笠原ウミガメ報告会）、3月（神奈川総合高校講演、国際資源評価事業混獲生物サブユニット推進検討会、プラバンワークショップ、日野市社会教育センター小笠原講演）、平成26年4月-平成27年2月まで隔月（「海洋と生物」寄稿）、平成26年5月・7月・9月・11月・平成27年2月（東急ハンズワークショップ）

【場所】東京都、神奈川県、静岡県、鹿児島県、ニューオーリンズ

【従事者人員】15人

【対象】一般、高校生、学会員

(2) その他の事業

① 物品販売

【内容】「小笠原村屏風谷施設（小笠原海洋センター）」の展示館において、来館者に物品の販売を行った。また、今年度は小笠原海洋センターオリジナルグッズ（菓子箱）を作成し、販売した。エバーラスティング・ネイチャーのWEBサイトにおいてネット販売を行うほかイベントにおいても物品の販売を行った。インドネシアのウミガメ保全事業地住民が製作した民芸品などのフェアトレードを実施した。

【日時】平成26年4月1日から平成27年3月31日

【場所】小笠原村屏風谷施設、神奈川県横浜市（当団体事務所）、インドネシア

【従事者人員】20人

【対象】会員及び一般消費者